

2020年10月4日

第1268号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤鉱一(宝徳)
TEL0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉱一」と検索で入力を。

お問い合わせをお願いしています。民報を配布するにご連絡下さい。
(月200円程度)
9月 34人 29,736円
8月 40人 24,628円

日帰り温泉施設の存続が論議 産業建設常任委員会で「市直営」や「廃止」論も



鶴岡市議会9月定例会で日帰り温泉施設の存続が論点になり、14日の産業建設常任委員会で質疑が行われました。

雨を告げる山・雨告山(あまもりやま)

新町・斎藤留治



渋谷耕一委員 私もいろいろ提言してきた。

平日は老人しか入らないから、朝日と連携して平日は交替に休む。バスを利用する。

今後のあり方を行革にゆだねるというが、行革の委員長は商工会の会長で第3セクターの一員として運営に関わってきた人だ。

露天風呂を作つて温泉の活性化を図るなど愚の骨頂だ。

温泉は、維持管理と人件費がかからないようやりながら、人をいっぱい集めてこれるかだ。

これからは住民福祉のために、公設公営で市が運営していくべきだ。そうなれば朝日も元に戻す。行政から逆戻りするというけれども、この問題はそうでない。

商工観光部長 これまで人件費削減や経費の削減、企業回り、3温泉協力してのイベントなど、経営努力を積み重ねてきた中で、コロナ禍で立ち行がなくなってしまった。行政委員会で全てを決定するのではない。

鶴岡市議会9月定例会で日帰り温泉施設の存続が論点になり、14日の産業建設常任委員会で質疑が行われました。

担当者で庁内横断的な委員会を立ち上げ、素案をつくり、行政委員から様々な意見を頂戴する。

朝日ほんぽは、時間的なることもあり、改めての検討課題だ。

本間信一委員 3温泉が同じエリアで存続するのは難しい。

商工観光部長 廃止は考えていない。まずは経営の継続に向けてどのような手法があるかだ。

300m余りは、火山噴火による火口丘といわれ、馬蹄型カルデラの中間に尖った小ピークを見せている。

同山には労山・鶴岡の皆さんと一昨年の6月に挑戦をしたが、その時は山麓に広がるブナ林の残雪に阻まれて、登頂を諦めた事があった。

「雨を告げる山」という語感から、柔らかなイメージで簡単に登れると思ったが全く逆で、登るにはなかなか骨の折れる山であった。雨告山登山口は標高600m位の車道(大網うたらのき代)に案内板があつて、頂上との標高差は約700m(途中登り下りを除いて)。

毎日眺めている月山の火山活動は約70万年前に始まり、最後に噴火した約30万年前に山に比べ、庄内側は急峻なだらかな東側斜面。

標高差は驚くほどではないが、だらだらと続く歩く距離が長く、「まだかーまだかー」の感じで歩くこと約5時間、頂上直下の最後

な谷で、長径2・5kmの馬蹄型カルデラがデンと聳えている。月山には複数の火口があるが、私達(山岳会・労山鶴岡)が目標した「雨告山・標高1300m余りは、火山噴火による火口丘といわれ、馬蹄型カルデラの中間に尖った小ピークを見せている。

途中、景色を眺める所は無く、「のぞき」という場所で、月山のカルデラと藤島川が流れてくる雄大な景色を望むことが出来た。

50mの登りには、胸を突く急登で、木に掴まり攀じ登つて山頂に立つた。

山頂は数人座れるか

途中、景色を眺める

所は無く、「のぞき」という広さだ。

